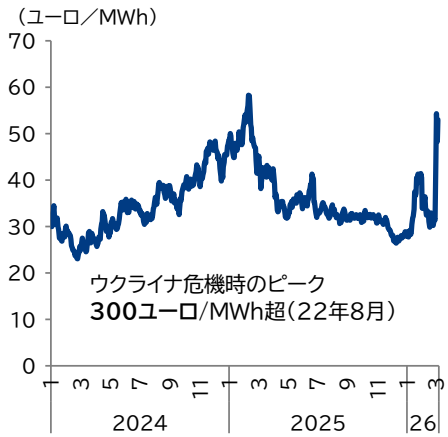
欧州

天然ガス動向

ガス在庫積み増し局面で中東の供給制約発生、市況への影響に注目

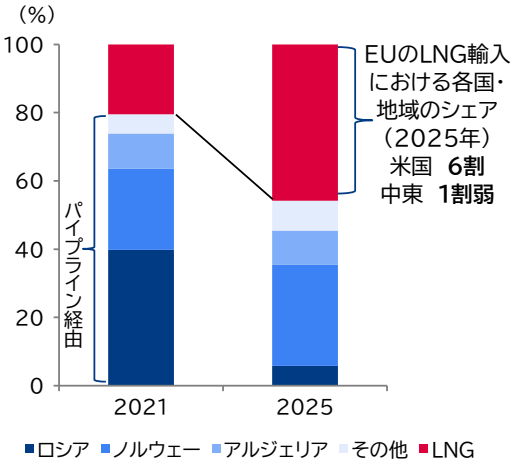
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 天然ガス価格（TTF）



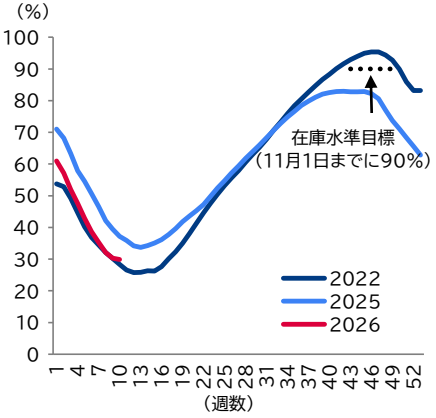
注：日次データ。直近は3月6日。
出所：Macrobondを基に三菱総合研究所作成

2 EUの天然ガス輸入



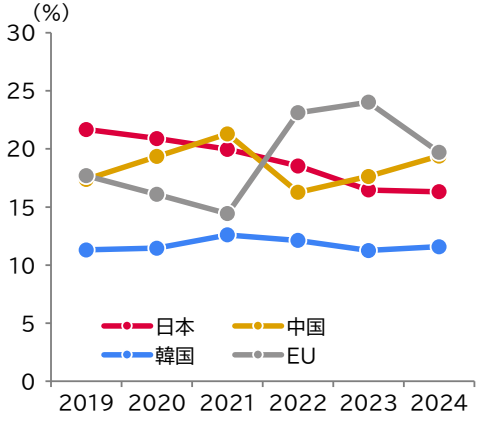
注：青系のロシア等はパイプライン経由での輸入。LNGの中には、ロシアやノルウェーからのLNG輸入も含まれる。
出所：Breugelを基に三菱総合研究所作成

3 EUの天然ガス在庫



注：ガス在庫の割合は週平均。直近は3月2日週。
出所：Macrobondを基に三菱総合研究所作成

4 世界のLNG輸入シェア



出所：GIIGNL「Annual Report」各年を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

中東情勢を受けた欧州の天然ガス動向

- 中東情勢の混乱を受け、欧州の天然ガス価格（TTF）が急騰している（図表1）。天然ガス価格は、ガス需要が高まった25年初頭以来1年ぶりに、50ユーロ/MWh程度（3月6日時点）まで上昇している。
- ガス価格の急騰による物価等への影響は懸念されるが、中東情勢の悪化を受け、直ちにエネルギー不足が生じる可能性は低い。EUはウクライナ危機を受け、脱ロシア依存と供給源の多様化を進めている。その一環で、独仏等はカタール産LNGの長期契約を結んだが、本格的な供給は26年からであり、現時点でカタール等中東地域への依存度は低い（図表2）。欧州委員会及びEU各国も3月4日に、石油・ガス供給の懸念は現時点でないと公式に発表している。

今後の注目点

- 先行きの注目は、EU各国の26年末に向けて進める天然ガス購入が、市況に与える影響である。
- 欧州域内のガス在庫は、22年以来の低水準にある（図表３）。今後は26年末の需要期に向けてガス在庫を積み増す期間に入るが、在庫を回復させるため、例年より輸入量を増やす必要性が高い。
- EUの需要増加は、中東情勢の混乱による供給制約と相まって、世界的なガス価格上昇につながる可能性がある。ウクライナ危機以降、世界のLNG市場におけるEUの輸入シェアは2割程度で推移している（図表4）。カタールエナジーは、同国のLNGプラントがイランから攻撃を受け、生産停止を発表した。生産停止が長期化すれば、EUの直接的な供給不安に加え、アジアとのスポット市場での調達競争を通じて、需給のタイト化要因となる可能性がある。
- ガス等のエネルギー価格の上昇が短期で落ち着けば、ユーロ圏の物価への影響は一時的にとどまるとみる。ただし、コスト上昇が長期化し、企業や家計のインフレ期待が上振れるなどの持続的な物価上昇圧力の兆候が生じれば、ECBは利上げに転じるだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.